

from the world

世界の国から

コートジボワール共和国

Republic of Côte d'Ivoire



ソランジェ・アミーシャ氏

コートジボワール投資促進センター 副総裁

Ms. Solange M.F. Amichia

Deputy Chief Executive Officer, Investment Promotion Agency, Côte d'Ivoire (CEPICI)

首都 ヤムスクロ
(実質的首都機能はアビジャン)
面積 約322,436平方キロメートル
(日本の約0.9倍)
人口 2,060万人(2012年 UNFPA)
政体 共和制
元首 アラサン・ウワタラ大統領
言語 フランス語(公用語)、各部族語
通貨 CFAフラン



2020年までに新興国入りを目指す

多岐にわたる産業分野

アフリカ大陸西部に位置するコートジボワール共和国は、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)、西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)に加盟しており、南部最大の都市アビジャンを拠点とした物流・交通のハブとして、西アフリカ地域経済の牽引役を担っています。また、同地域の経済大国として9%台の高い成長率を維持しています。隣国との人の出入りが活発であるという背景から、外国文化に対する受容性が高く、様々なスキルをもった人材が豊富です。

主要な産業は、ココア、コーヒー、パームオイル、カシューナッツなどの農産品加工を中心とした製造業ですが、鉄・ニッケル・マンガンなどの地下資源にも恵まれています。その他、観光業、保険セクター、エネルギー関連など、あらゆる分野にビジネスチャンスがあります。

今回は、日本企業の皆さんにコートジボワールのビジネス機会をお知らせするために来日しました。潜在中はコートジボワールでのビジネスに関心を持つ企業と個別に

面談したほか、大阪でセミナーを開催しました。農業、水処理、エンジニアリング、インフラ、エネルギー、製造業等、多岐にわたる企業から反響があり、日本企業の関心の高さを実感しました。

急速に進む投資環境の改善

長年にわたる政治危機を脱したコートジボワールでは、2011年以降、急速な投資環境の改善が進んでいます。治安局の設置やインフラの再構築が行われた結果、2013年の世界銀行の報告書では、投資環境が改善した国のトップ10に入りました。2012年にはワンストップ・ショップ(CEPICI)を設立して手続きの簡素化を図り、立地場所により5年、8年、15年にわたる税の減免制度を設けるなど、投資優遇措置の整備も急速に進めています。

農業分野では、土地を提供して投資を呼び込み、GDPに占める農産品加工分野の割合を現在の20%から50%にまで引き上げる計画です。また、巨額の投資を必要とする鉱業、石油、テレコミュニケーション等の分野ではより大きな優遇措置が用意されています。

コートジボワールは、2020年までの新興国入りを目指しており、民間投資の促進を主軸とした国家開発計画を実施していますが、第1次計画(2012年~2015



グラン・バッサムの歴史都市(写真提供:世界遺産まとめ)

年)の検証の結果、予定よりも早い開発を実現させているため、第2次計画(2016年~2020年)では、さらに積極的な開発が進められる見込みです。

日本とのビジネスに期待

日本人は親切で礼儀正しく、計画通りにビジネスを進める印象があります。また、日本企業は自らのやり方を押し付けるのではなく、現地企業をパートナーとみなして一緒にビジネスを進めようとする姿勢を持っていることに大変感銘を受けました。このような姿勢は現地企業を成長させるという意味でもとても有益だと思います。

現在日本からは味の素、伊藤忠、豊田通商等の企業が進出し活躍していますが、これからは大企業だけでなく中小企業にも来ていただき、現地の企業と一緒にプロジェクトを組み、ビジネスを展開して欲しいと思います。日本企業の参入により、コートジボワールの市場が活性化することを願っています。



世界遺産・タイ国立公園(写真提供:世界遺産まとめ)